

【小学校・中学校・義務教育学校用】

## 令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	江北町立江北中学校	C : やや不十分である D : 不十分である
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価保護者アンケートにおいて、「学力の向上」「生命尊重や思いやりの心を育む教育」「いじめについての早期発見」「生徒一人一人への理解」についての学校側の取り組みにおいては、8割以上の保護者が肯定的な回答を寄せていた。このことから今年度の学校教育目標に沿った教育活動はおおむね推進できていると考えられる。一方、家庭学習への取り組みについては生徒、保護者の半数近く、道徳の授業への意欲については4分の1余りの生徒が否定的な回答をしていた。学習への習慣づけの指導や道徳教育へのさらなる取り組みの推進を行う必要がある。</li> <li>「時間外業務」への教員の意識について、4割以上の教員が否定的な回答をしており、今一度、教員が「働き方改革」の意義について認識する必要がある。</li> <li>コロナ禍の収束を受けて、江北小学校との授業交流や情報交換などの連携を再開したが、連携が進んできたと考える教員は半数にとどまっており、義務教育学校の開校を見据えて、さらなる連携を進めていく必要がある。</li> </ul>	

2 学校教育目標  
自ら学び心豊かにたくましく生きる生徒の育成

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"><li>○確かな学力の育成<ul style="list-style-type: none"><li>・学習規律の確立</li><li>・「めあて」「まとめ」「振り返り」で授業改善</li><li>・家庭学習の質向上</li><li>・ICTの利活用</li><li>・小中連携の推進</li></ul></li><li>○心の教育の充実<ul style="list-style-type: none"><li>・生徒指導・支援体制の充実</li><li>・不登校対策推進</li><li>・道徳教育の充実</li><li>・特別支援教育の推進</li><li>・人権・同和教育の推進</li></ul></li><li>○自主活動の推進<ul style="list-style-type: none"><li>・生徒会活動の充実</li><li>・生徒主体行事の推進</li><li>・ボランティア活動の推進</li><li>・キャリア教育の充実</li><li>・無言清掃の推進</li></ul></li></ul>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標		中間評価		5 最終評価		学校関係者評価			
(1)共通評価項目			評価項目						
重点取組		具体的な取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○自分の考え方をもち、表現できる生徒の育成	○「自分の考え方をもち、表現することができた」に肯定的な回答をする生徒の割合を80%以上。 ○家庭学習に時間以上、計画的に取り組んでいる」と答えた生徒の割合60%以上。	B	・生徒が関心を持ち、かつ取り組みやすい学習課題を提示し、自分で考え判断し、さまざまな手段で表現する活動を組む。 ・生徒による授業アンケートを学期に1回実施し、授業改善を行う。	B	・教師アンケートで「生徒が考え、表現する言語活動を授業中に組み込む」に肯定的な回答をする教師の割合が、84%を達成した。常習学習やパフォーマンス課題に伴う学習といった、生徒の主体的学びにつながる学習課題を設定した日々の授業実践。 ・TT授業や授業参観、生徒による授業評価アンケートなどによる取り組みにより、生徒アンケートで「先生が分かる授業に努めている」に肯定的な回答をする生徒の割合が、95%を達成した。 ・自主学習ノートの、内容改善による家庭学習向上のための取り組みについて、さらに進めていく必要がある。。	B	・同じ教科で、教える先生が違えば、生徒の理解度に差があると感じていると聞く。その改善に努めて頂きたい。 ・「授業で自分の考え方をもち、その考え方ワークシートに書いたり、発表したりすることができているので否定的な答えが24%もあるのは問題であると思う。(生徒の性格もあると思う) ・生徒がわからうとしているかどうか知りたい。話す・聞くがうまくない子どもが多くなっているので、「表現」について学んでほしい。 ・先生がわかる授業に努めていると考えている数が多いのは、うれしいことである。丁寧に指導して頂いていると思う。 ・いろいろな取り組みは評価できる一方で、数字として成果が出ていない。学力とは何を指すのか評価が難しい。 ・文化発表会での一体感ある歌唱および行動に、日頃から主动的に取り組んでいる姿勢が見て取れた。	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「道徳の授業を受けることは楽しい」と答えた生徒の割合80%以上。 ○「深い学びにつながるよう、考え方、議論する道徳の授業の実践に取り組んでいい」と答えた教員の割合70%以上。	A	・人権集会や平和集会を実施する。 ・学年を中心にティーム・ティーチングによる授業を計画的に実施できている。 ・深い学びにつながるよう、考え方、議論する道徳の授業の実践に取り組んでいい」と答えた教員の割合70%以上。	A	・具体的な取組は、ほぼ計画通り実施することができた。 ・道徳の授業については、これまでの取組を継続し、ティーム・ティーチングによる授業を計画的に実施した。 ・朝の会で1分間スピーチのハートタイムを実施している。 ・SSE(ソーシャルスキル教育)を実施し、学校生活や感情のコントロールなど、適切な行動をとるためにスキルを身につける活動を行っている。	A	・道徳の授業での学びを実際の場に置き換えて考えることが大事で、深い学びだけでは終わらせてはいけないと思う。 ・「生命」「思いやり」「他者理解」など、出生から死までこのことを考える機会を作れたらいいかもと考える。 ・道徳の授業は生徒にとって入試科目にないので関心が低いと思う。 ・様々な取り組みが計画され、努力されていることに、感動する。 ・丁寧に指導して頂いている。 ・自分の考え方をアップデートすることは大切だと思うので、1分間スピーチはよい取り組みだと思う。	
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「いじめ防止等について組織的対応がでていている」と回答した教員の割合80%以上。 ○「いじめや差別を許さず、相手の気持ちを考え生活している」と答えた生徒の割合80%以上。	A	・いじめ対応についての研修を年間2回実施する。 ・学校生活に関するアンケートを毎月実施して「いじめの早期発見」につなげることができている。 ・今年度よりSSEに取り組み、コミュニケーションスキルの育成に努め良好な人間関係の築き方にについて考える機会を開設している。 ・休み時間や昼休み等も巡回指導を行っている。	B	・「いじめや差別を許さず、相手の気持ちを考え生活しているか」に肯定的な回答をした生徒の割合は、97%だった。学校生活アンケートを毎月実施して、いじめの早期発見に努めている。また、機会がある毎に生徒指導提案を活用し実際の生活指導の中に生かしていく必要性を訴えているが、業務の都合上で徹底できていないことが課題である。 ・「組織的な対応ができる」と肯定的な回答をした教職員は68%であり、準備時間や昼休み等の巡回指導を含め取り組んでいる。その一方で、32%の教職員が肯定的な意見とは言えない状況である。そのような事が今。今まで以上に対応の窓口を一本化し、誰もが理解し取り組めるようなシステムの構築が必要がある。	B	・多感な頃の人間関係は、時にもっとも深刻な事態を招きかねないので、できる限り最善の方法を一緒に考えてもらえるだけで救われれると思う。 ・「いじめや差別を許さない」と唱えるだけではなく、クラスや学校全体の明るい雰囲気作りをお願いしたい。ここに寄り添った親身な対応をしたい。 ・青年会議としては、連絡会を開催し、連絡会にて巡回指導して頂いています。 ・「アシカーを見ると生徒が自分の心と離れてない間に、集団の中で生きているのがわかり嬉しいらしいと思う。 ・「あなたは、いじめや差別を許さず、相手の気持ちを考えて生活していますか?」に生徒は97%が肯定的だが、保護者、教員に否定的な意見が一定数おり、引き続き取り組みが必要。 ・思春期というのもあり、いじめ指導や人間関係はすごく難しいと思う。そこで、先生たちのハードルを上げず、できることから少しずつこの課題に取り組んでいきたい。	
●心の教育	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上。●「将来の夢や目標を持つていい」というに肯定的な回答をした児童生徒80%以上。 ○「キャリアパスポート」を活用するなど、生徒の進路や将来のことについて考える時間を持っている」と答えた教員の割合85%以上。	A	・職業調べ・職場体験・進学説明会など学生ごとの体験活動を踏まえて職業鑑定や正しい進路選択の意識や態度を養い、進路学習を充実させる。 ・キャリアパスポートの活用し、将来の進路について考えさせる機会を設定する。	A	・職業調べ、高校調べ、進学説明会は実施することはできた。 ・キャリアパスポートに関しては、行事や学年末ごとにファイリングができるので、1年生ではキャリアパスポートの活用についての学年集会も実施できた。 ・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」について肯定的な回答をした生徒は、90%だった。 ・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒は、73%であり、さらなる進路指導の充実が必要である。	A	・職場体験は、知らない人と仕事や働くことについて考え、貴重な体験だとと思う。仕事を知ることはとても大事だと思う。 ・子どもの進路を決めるのは、子ども本人であり、進路を考へる機会が増えたのは嬉しいことだと考える。 ・「あなたは、将来の夢や目標をもっていますか?」に90%の肯定的な答えは物足りない。 ・夢や目標を持つことはもちろん大切だと思うが、よい意味で適当というか、余白を持った考えでもよいと思う。	
●教育相談の充実	○教育相談の充実	○「学校生活の中で相談できる人(先生、スクールカウンセラーや友達など)がいる」と肯定的に回答する生徒65%以上。 ○「学校はSCやSSWと連携した教育相談体制が機能している」と答えた教員の割合85%以上。	A	・教育相談週間を年に2回設定し、全員が生徒の相談にあたる。 ・毎週教育相談部会を開催し、生徒の実態に応じた体制ができつつある。 ・SCに全学級で心の授業(SOSの出し方)を行った。 ・夏休みにQ-Uアンケートの研修会を実施する。	B	・SCを講師に教育相談についての研修を深めた後、6月に全校生徒対象に教育相談を実施した。 ・毎週、教育相談部会を開催し、生徒の実態に応じた体制ができつつある。 ・SCに全学級で心の授業(SOSの出し方)を行った。 ・夏休みにQ-Uアンケートの研修会を実施した。	B	・友達にいらない、担任に話せないと困った場合、SCなどに話せる環境があると、安心できると思う。 ・教師と生徒の関係はよいと思う。 ・SC・SSWの活用もできていると評価している。 ・不登校生とゼロを目指し、達成してほしい。 ・SCやSSWとの連携についてはほとんど活用することが先生一人一人の負担軽減にもつながると思う。	
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○「健康に良い食事をしている」と考える児童生徒95%以上。 ○朝食をとっている児童生徒98%以上	C	・生徒会給食部の活動と連携し、「食の大しさについて考える活動を行う。 ・江北小学校の栄養教諭と連携を図り、中学生2年生に食の授業を実践する。	C	・「健康に良い食事をしている」と考える2年生の割合は、66.74%であった。 ・毎日またはほとんど毎日食事をするとした生徒の割合は85.79%であった。一方、食べ物の好き嫌いがない人はあまりない答えた生徒は35.4%であった調理実習で調理を経験させる中で、好き嫌いさせずに食べることが大切だという事を学ばせたい。 ・「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」を掲げているが、日常の給食時間に目を向けると、学年やクラスにより、偏食や小食の生徒、牛乳を飲まない生徒の問題があり、課題を感じる。	B	・家庭でとれていらない食養を給食で提供することに意味があると考える。 ・ダイエットなどではなく、望ましい食習慣で健康が作られるこを指導し続けてほしいと思う。 ・食習慣の確立は家庭の問題である。 ・学校での食育の取り組みは、十分できていると思う。91%の生徒が、肯定的回答をしている。偏食・少食・牛乳の問題は、学校での指導に限界がある。 ・食については、子どもだけではどうにもならないところだと思う。農業体験や色の話ではどんどんペリーポタンを活用してもらいたい。	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	○教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○「時間外勤務の上限を理解し、時間外勤務の削減に努めている」と答えた教員の割合85%	B	・3ヶ月ごとの月平均残業時間が44時間、9月から12月までの平均残業時間は47時間と、業務改善および職員の意識改革が大きく進んだ。 ・定期的退勤日や事務処理時間を設定する。 ・ICTを活用した業務の効率化を図る。	A	・学校運営の工夫や会議等の精選、勤務時間、学校施設時刻の可視化に努め、時間外在校時間の縮減が進んだ。 ・年間の時間外勤務時間の平均は45時間を下回り、昨年度に比べて時間外勤務時間の削減が大きく進んだ。 ・「あなたは、時間外勤務の上限(月45時間)を理解し、時間外勤務の削減に努めていますか?」に対して、肯定的な回答が90%を超えており、昨年度までと比べて職員の意識の改革が大きく進んだ。	A	・生徒のためだと思うと頭が下がるが、まずは先生方の健康あっての学校なので、まずは自分が体調をいたわってほしい。 ・部活の指導、生徒指導等で教職員が疲れ果てないことを望む。 ・地域との関係性を保ち、子どもと家庭が話合って地域クラブ等へ通えばいいと思う(家庭としては送迎が問題) ・昨年度に比べて、意識改革が進んだ。	
●特別支援教育の充実	○生徒の特性に応じた教育の充実	○昨年度より特別支援教育が充実したと回答する教員が80%以上。	B	・該当する生徒の個別の指導計画、教育支援計画を100%作成できた。指導計画は学年ごとに作成し、生徒の指導支援に生かしている。 ・特別支援教育に関する校内研修会を1回以上実施する。	A	・個別の指導計画、教育支援計画については、該当生徒すべての計画を作成することができた。指導計画については、全職員で共有し、活用をどうしていくべきかが今後の課題である。 ・外部から講師を招聘し研修会を実施した。また、支援部会等で話し合った内容については、必要に応じて職員への周知を行うことができた。「特別支援教育が充実した」に対して、肯定的な回答は95%の割合で昨年より数値を伸ばした。	A	・各教育段階での支援の難しさは認識している。時には、小中相互の特別支援学校の授業参観もあっていいと思う。 ・進学にも関わってくる時期だと思うので、僕達にされているのだと思う。引き続きよろしくお願ひしたい。 ・先生方の努力と生徒への愛がみじみ正在りと感じる。 ・成果指標を大きく上回っている。具体的な取り組みも確実に実施されている。引き続き、将来を見据えた指導をお願いしたい。	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目		重点取組		中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的な取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○小・中連携教育	○小学校との連携推進	○小学校との連携が進んだと回答する教員80%以上。	A	・教務、生徒理解のための小中合同による研修会を7月に、がん教育総合推進事業のための小中合同による研修会を9月に実施した。 ・小学校の特別支援学級所属の児童(5年生)の保護者も加えた授業参観を実施するとともに、特別支援教育コーディネーターが中心となり小学校との情報交換を積極的に進めている。 ・令和6年度中学校への進学説明会を今年度は中学校で開催し、併せて学校見学を児童及びその保護者に行なうことで、保護者への理解を深めた。 ・令和7年度進学予定者で、特別な配慮を要する児童との保護者に対する小中合同の懇親会を開催することができた。 ・「江北小学校と授業での交流や情報交換などの連携が進んでいると思いますか?」についての職員の肯定的な回答は95%であった。小中合同懇親会などを通じて、保護者も含め、児童が小中1歩ずつ成長する姿を満喫して満足感。	A	・小学校の特別支援学級在籍児童(小5・小6)を対象に、保護者も交えての授業参観と説明会を実施した。また、小学校の支援学級担任を対象に、中学校生活や進路に関する講話を実施し、連携を図った。 ・今年度は小中合同研修会を2回開催することが、共通のテーマで研修を深めることができた。 ・令和6年度中学校への進学説明会を今年度は中学校で開催し、併せて学校見学を児童及びその保護者に行なうことで、保護者への理解を深めた。 ・令和7年度進学予定者で、特別な配慮を要する児童との保護者に対する小中合同の懇親会を開催することができた。 ・「江北小学校と授業での交流や情報交換などの連携が進んでいますか?」についての職員の肯定的な回答は95%であった。小中合同懇親会などを通じて、保護者も含め、児童が小中1歩ずつ成長する姿を満喫して満足感。	A	・小中連携は十分にとれていると思う。今後、連携を図るために、家庭にお願いしたいことは遠慮無くマチミ等で発信してほしい。 ・特別支援学級の生徒に手厚く対応されていることがわかる。進学説明会には、親として参加したいが内容だったと思う。先生方の交流を通して、子どもたちが、よりスマーズに進学できるようサポートして頂けるとありがたい。 ・様々な工夫が展開され、素晴らしい。 ・昨年度に引き続き、1小中の強みを生かして丁寧な取り組みがなされている。	

© 2010 Pearson Education, Inc., publishing as Pearson Addison Wesley.

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育